

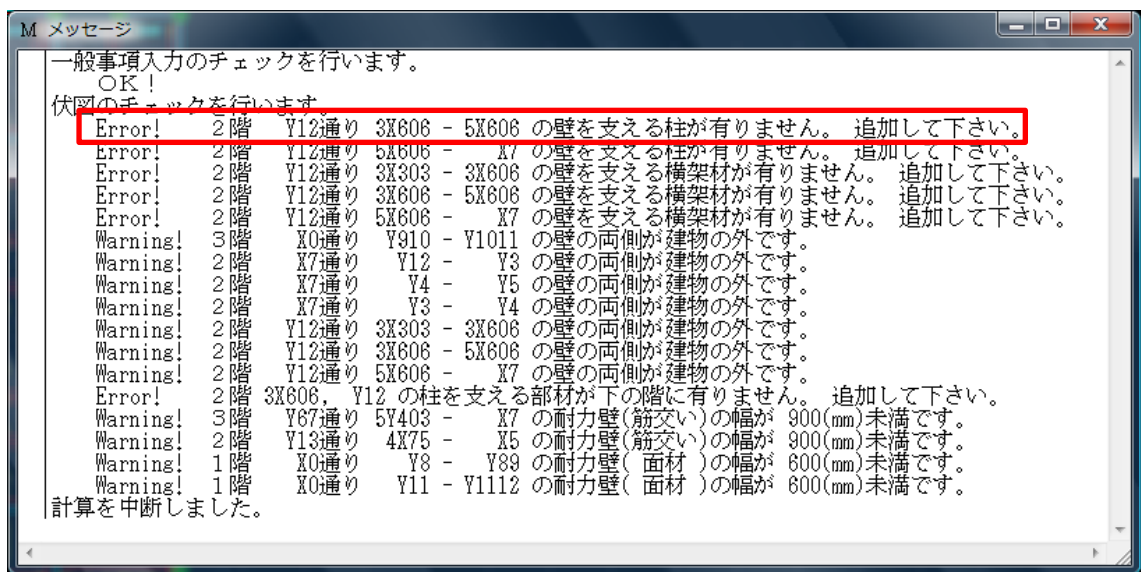
Q. 通り名が重複していることにより、エラーの原因究明が困難になってしまうケース

【質疑内容】

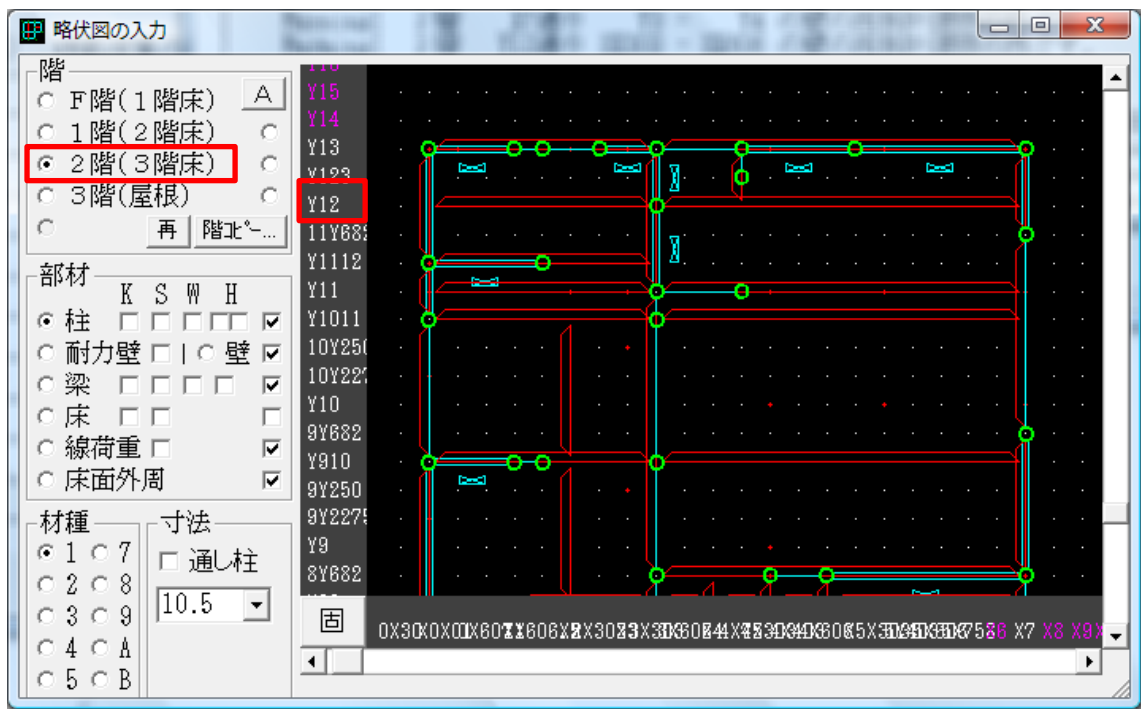
柱の無いところに柱があるメッセージが、また、壁が無いのに壁があるようなメッセージが出ています。

【回答】

実際にデータを計算実行し、エラーメッセージウィンドウを確認します。



[Error! 2階 Y12 通り・・・壁を支える・・・]を[略伏図]で確認します。

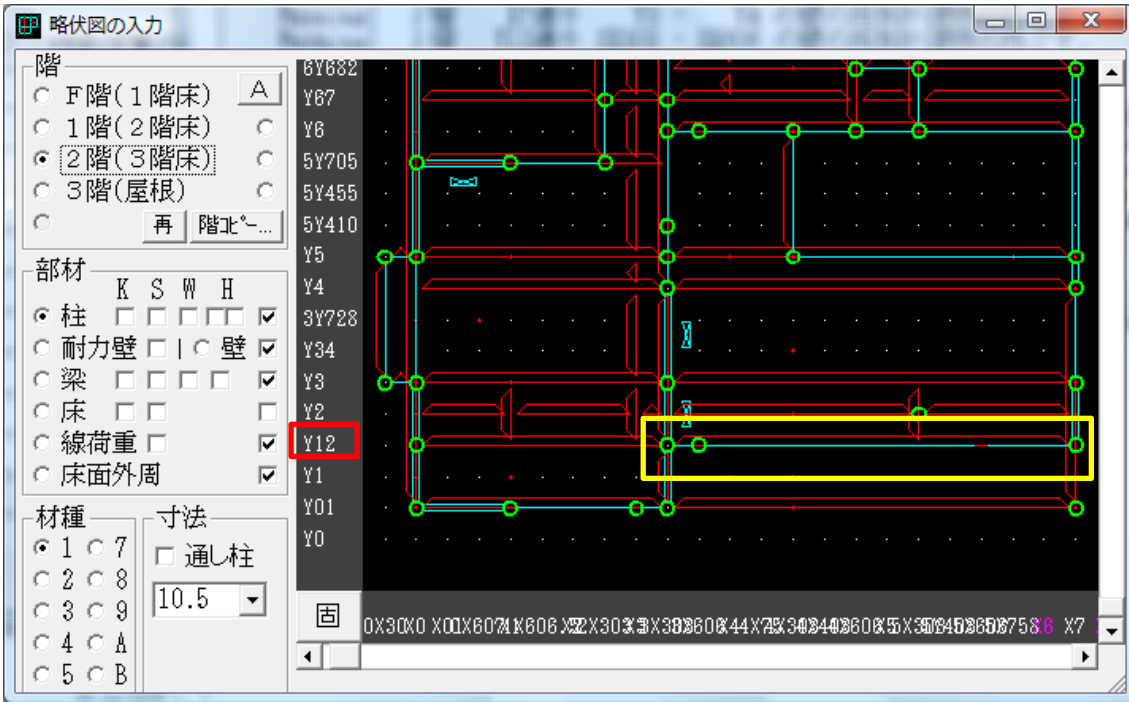


[2階 (3階床)] (Y12 通り) を表示すると、[壁]は配置されていません。メッセージと矛盾します。

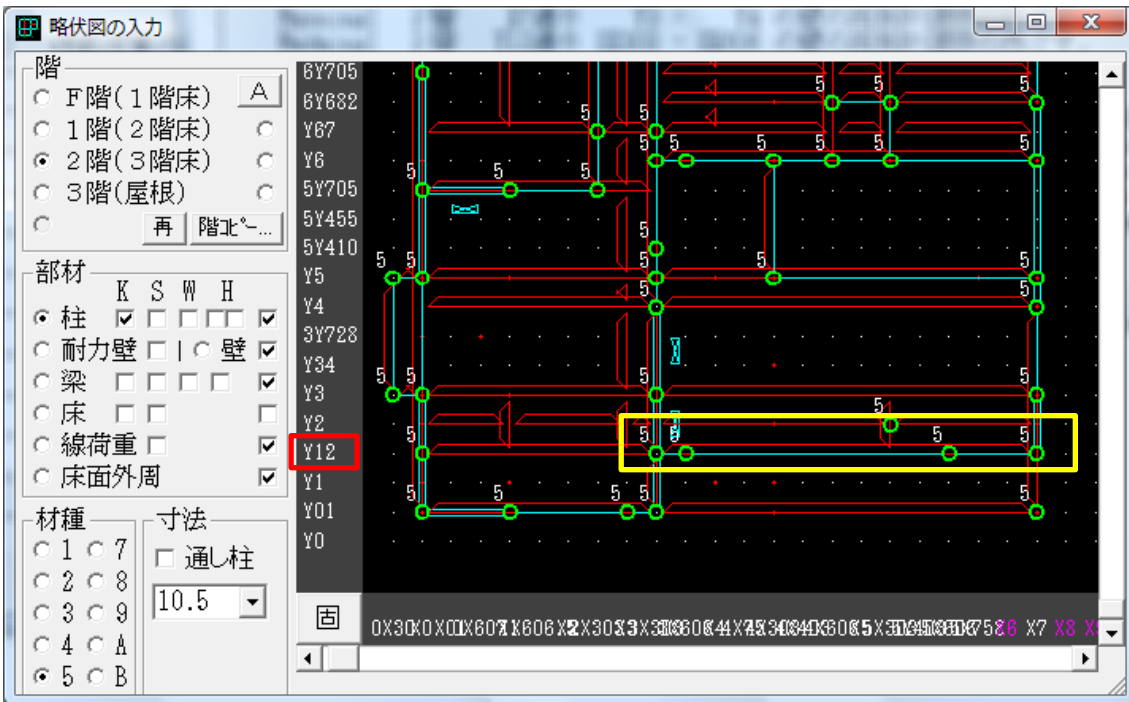
ところが、略伏図を下にスクロールすると、【同じ通り名称 (Y12)】が有ります。

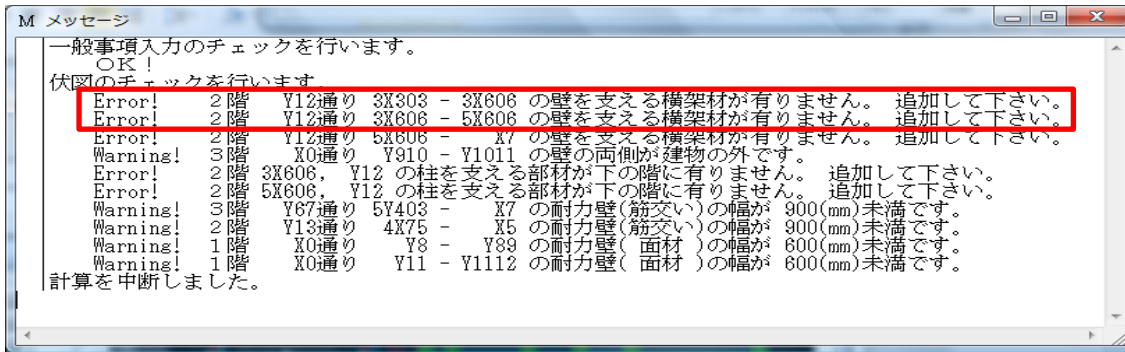
おそらく Y1 と Y2 の間、【Y1 の二つ目の通り】として、(Y12) と名称を付けられたものと考えます。

この通りに[壁]が配置されています。メッセージが指摘するように、[壁]の端部に支える[柱]が有りません。



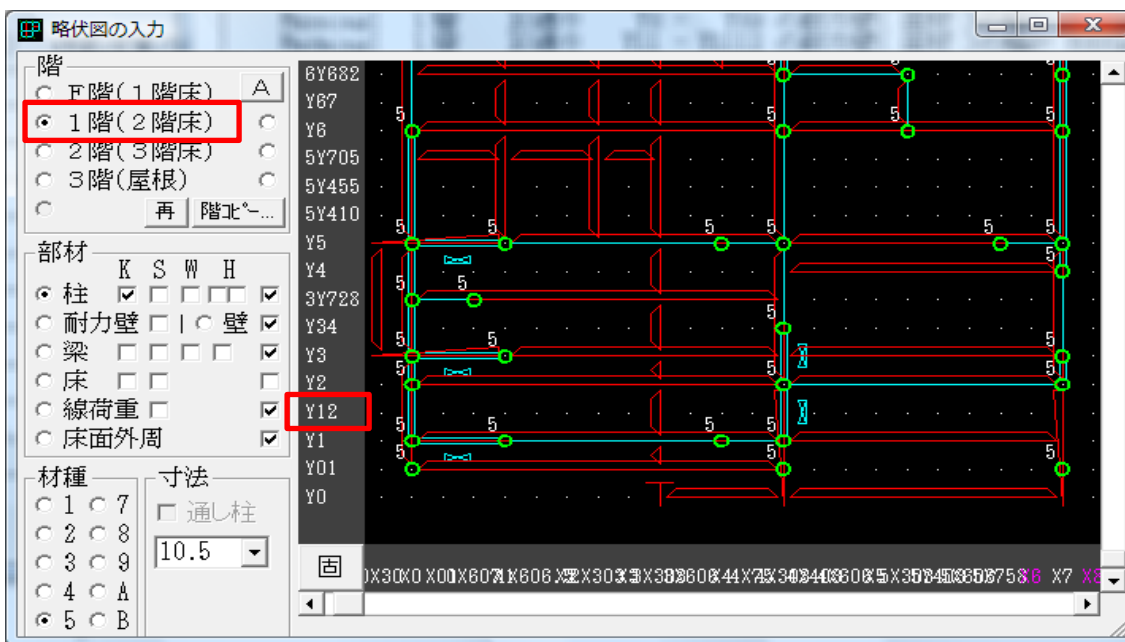
[柱]を配置し、計算を行いました。



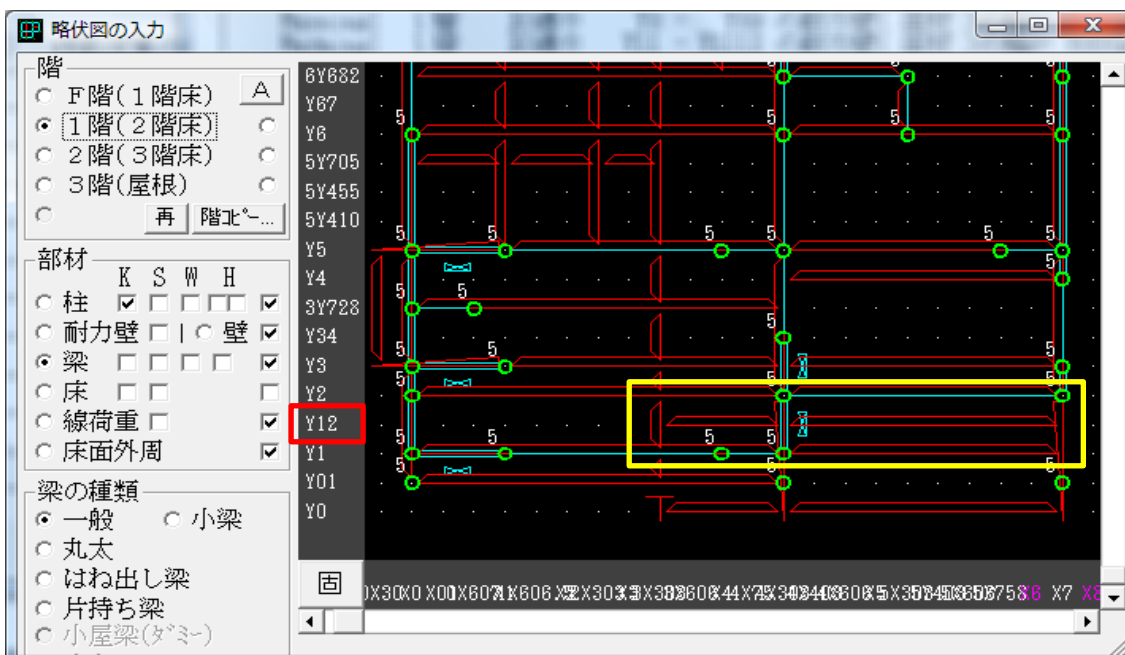


次に[Error! 2階 Y12 通り・・・壁を支える・・・横架材・・・]を[略伏図]で確認します。

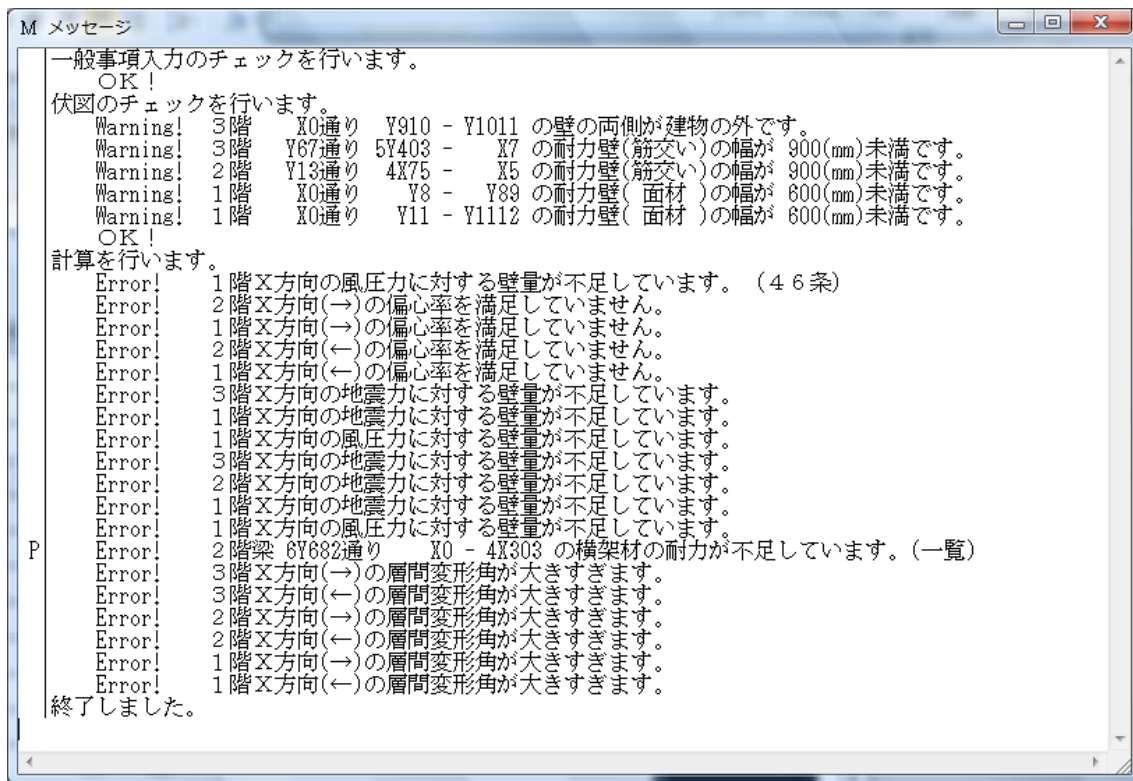
[1階 (2階床)]の画面です。上階に壁があるにもかかわらず[(2階床)のY12 通り]に横架材が不在です。



横架材を配置し、計算を行います。



計算が終了しました。



この様に、同じ通り名称が重複している場合、エラー個所を探すのに時間を要する場合があります。そこで、出来るだけシンプルに名称を付けることをお勧めします。

例えば、X 1、X 2、・・・の追加通りの場合は、【1文字で表す A,B,C、・・・,a,b,c、・・・】にする、Y 1、Y 2、・・・の追加通りは【数値のみで表す 11,12,13、・・・,21,22,23、・・・】で表記するなどすれば、同じ名称を付けることは無いと考えます。

